

平成22年度 第2回東濃西部少年センター運営協議会議事録

日 時 平成23年1月6日(木)
午後1時30分～午後3時
場 所 東濃西部総合庁舎 5階南会議室

1、開会

- ・会議の成立の確認

12名の出席で会議の成立を確認 (代理出席1名)

- ・オブザーバー紹介

(1) 所長挨拶

(2) 議長挨拶

2、議 事

① 平成22年度補正予算(案)

石原所長： 資料「補正予算見積書(案)」に基づき説明

質問なし 承認

② 平成23年度業務計画(案)

石原所長： 資料「平成23年度業務計画(案)」に基づき説明

村瀬委員長： 質問は、ありませんか。

大竹課長： 地域の啓発活動に、MSリーダーズや地域の高校にも協力を得ています。

県警のホームページに、MSリーダーズ通信が載っています。その中でMSリーダーズの活動を紹介しているところがあるので、できたらそこで「FAIR PLAY」も紹介していただき、みなさんに知っていただけたらいいと思いますので、情報提供をして多くの方に呼びかけていくこともお願いしたいと思います。

土本主事： 支部ニュースで、現在は多治見地区の高校に配っています。

MSリーダーズの活動があったときには知らせていまして、県内から集まった中から選んで載せられていると思います。

富田校長： 高校では一般に向けてのアピールは、難しいです。予算的にも手段も無理があります。せいぜい新聞に取上げてもらうくらいです。

石原所長： センターとしては、新聞社に取材をお願いをしたり、FMpipi や広域だよりなどに紹介をしてもらうようにしています。

村瀬委員長： 土岐地区は、今回の活動に中学生も参加したようですが。

可知課長： 毎年夏に、市民会議の活動で中学生が参加しています。天候の関係で中止となり今回は、秋と一緒に啓発活動に参加協力してもらいました。

村瀬委員長： 強制ではなく、自らがやろうという力を付けていくのは、いい事だと思います。

中島委員： MS リーダーズや中学生が活躍して、大きな効果をあげているのはとてもいい事だと思います。今、子育て支援や健全育成を目的として活動している団体が多くありますが、私たち PTA 連合会もその一つだと思います。ただ、そういった団体の横の連絡をとる機会がないのは残念だと思います。こういった団体が、一緒に活動すればより効果が得られるの思いますので、連絡調整会議など機会をつくって欲しいと思います。是非とも検討していただきたいと思います。

石原所長： 個々でやっていることを連携すれば、力が発揮できると思います。今年度、多治見駅的环境正常化検討会をスタートしました。

各機関から関係者が集まりそれぞれの機関でできることを実施してそれなりの成果を上げております。是非その方向にもっていけるよう努力します。

荒木委員： 11月に高校生の交通安全推進会議に参加して、自転車の盗難防止について意見交換をしました。なかなかいい意見があり、とてもいい活動だと感心しました。先ほどもいわれましたが、横のつながりを活かした活動は大切だと思います。

村瀬委員長： 今のご意見で、先ほどの説明の中にありました、指導部役員会に出ていただくのも連携をとる一つの方法かと思いました。

隔月で下校時の校門前の啓発活動ですが、学校数が多くて大変だと思いますが。

石原所長： 各地区で1－2校抽出して試験的にやって、検証してからと考えています。

村瀬委員長： また、結果を教えてください。
相談業務については、どうですか。

松川所長： 子どもたちが、受身的に守られたりするだけではなく、実際に体験し成長することはいいと思います。その点で、若者が参加するのはいい事だと思います。

相談活動については、相談機関がいろいろあることは、相談者が選ぶことができるのでいいと思います。選んで相談してきて、我々機関の人間が連携していればいいと思います。

村瀬委員長： それでは、次に指導員体制の見直しについてはどうですか。

大竹課長： 人数の総枠ですが、広域性ということであれば人数が多いほうがいいのではないかと思います。

少数精鋭で実質的な活動でいくのか、広域性で人数の枠を増やすのか、どのような方向ですか。

石原所長： 200名上限ですが、今までは無理にそろえてきたように思えます。その為、名ばかり指導員がたくさんあるので、どちらに軸足を置くか悩んでいる状態ですが、本来の目的から考えると、名ばかり指導員では意味が無いので、少数精鋭の方向でと考えています。

村瀬委員長： 上限を意識せず、しぼっていくということですね。

新しい取組みとして、ベストについては、永久貸与となっておりますが、これは差し上げるということですね。もう一つは携帯メールのシステムを活用して、センターから指導員へ情報の発信をしていくということですね。

出張講座ですが、センターの職員の出張講座ですか。

石原所長： 県の方から、携帯について・喫煙についてなどの専門の方に来ていただきます。その為の予算もしてあります。

村瀬委員長：他に質問はありませんか。

質問なし 承認

② 平成23年度予算（案）

石原所長：資料「平成23年度予算見積書（案）」に基づき説明

質問なし 承認

3、その他

・平成22年度4～11月の指導・相談活動の現状について

石田指導主任：資料「平成22年度指導活動並びに相談活動の現状」に基づき説明

村瀬委員長：特徴的な事例がありますか。

石原所長：高等学校の部活の問題で、顧問の体罰のことで8名の部員が逃げ出し地域の方に保護され、その方からセンターに相談がありました。

村瀬委員長：今後のセンターの運営について何かございましたらお願いします。

松川所長：少年センターの積極的な、巡回指導及び相談活動に敬意を表します。子ども相談センターは、虐待通告が110~120件から150~160件に増えました。大阪の事件から、一般の人にも通告の義務があるということが浸透してきたようで、近隣の方からの通告が増えました。

全体に相談件数は、多くなりましたが相談としては、命に関わるような内容はありません。

蓑島課長：皆さんの活動のおかげで、11月末までに非行件数は減少しています。反面、不良行為は683人増えています。これは、非行に走る前の非行の段階で食い止められた結果だと思います。（別紙資料参照）

学校との連絡体制がとれて、学校の情報や警察の情報のやり取りができるようになり、未然の対策が取れるようになり有難いと思っています。今後とも連携をよくしていただいてご協力下さい。

村瀬委員長：地区指導部からきていただいておりますので、ご意見を伺いたいと思います。

・各委員及びオブザーバーとの意見交換

多治見地区

和田地区役員： 私は多治見地区保護司会から推薦によりこの活動に参加しています。先程の生活安全課長さんからのお話で、今年は非行少年が減り、不良少年が増えているとのことで、良い方向に向かっているのではないかと思います。さらに私たちの活動で、不良行為をも起こさせないというのも重要だと思います。

多治見地区は各小学校区を中心として活動していますが、昨年の秋からセンターの指導もあり、JR 多治見駅周辺の巡回指導もしています。その際、多治見駅前交番に立ち寄り指導を受けるようにしています。今後もこのような活動をしていきたいと思っています。

黄色いベストは、着用しているだけで効果があります。ただ、夏は大変暑いので、黄色い帽子を追加して欲しいと思います。

瑞浪地区

三宅地区役員： 私たちは、夜の巡回が主です。7・9月は、市民会議と一緒に一日おきに回っています。マンネリと言われるかもしれませんが、継続が大切だと思っています。黄色のベストは、指導員として認識されていてとても効果があります。声を掛ける運動は、継続的にやらなければいけないと考えています。巡回する時に、ゴミ袋を持っていきます。ゴミ拾いか指導かという批判もありますが、声掛けのきっかけにもなります。

土岐地区

杉原地区役員： 土岐地区は、隔月に班長会をして、全13班から問題をだして、指導の参考にしています。駅前は、問題のある時間に回っているので効果があがっていると思います。

指導員は、何も権限が無いので警察の方との連携が欲しいと思います。問題のところは一緒に巡回していただくと安心できます。

以前の会議で、交番に声を掛けてくださいということでしたので心強いです。

蓑島課長： 計画表を各交番に渡して、時間が合うときは一緒に回るように伝えてありますので、事前に声を掛けてください。

杉原： 大変心強いです。

村瀬委員長： 他の方で何かございますか。

荒木会長： 皆さんが、頑張っておられるので万引きなどは減ってきております。喫煙に関しては、値上げの頃からくれば45パーセントくらいが戻ってきてます。

村瀬委員長： 貴重なご意見をたくさん頂きました。今後も様子を見ていきたいと思えます。

これもちまして、運営委員会を終了します。